

自由が丘東小だより

三木市立自由が丘東小学校

夏休みにすること・夏休みにしかできないことを ともに考え 新しい学びに

自身の小学生時代の夏休みといえば、私は一番に川遊びを思い出します。
自宅のすぐ近くに小川がありました。



透き通った冷たい水が流れ、すねの半分ぐらいの深さの川でした。
そこにはめだか、どじょう、ザリガニなどがたくさんいて、網とバケツを持ってずっと川に入っていました。
川のすぐ横には移転になった幼稚園の跡地があり、砂場で小山や水路をつくって水を流し、獲ったザリガニを歩かせて、遊びました。

その小川は、当時通っていた小学校の敷地の一部にも流れていました。

自宅近くで川に入り、学校前の道路の下を流れる川をトンネルのように進んで小学校の敷地に入り、さらに進んで学校裏の一面農地の中へと、どんどん川を進みました。いろいろな生き物や植物を触りました。
今では、農地はすべて宅地に変わり、川を囲んで造られていた小学校の観察園は道路拡張のために取り壊され、風景はすっかり変わりましたが、一日中友だちと川で遊んだ記憶は、今も鮮明に残っています。
この経験が、理科や生活科のお勉強などにとっても役に立っているなあと感じる時があります。



学校は、「夏休みにしかできないことをしてください」とお伝えしています。

それは、どこかに行くとか、お金をかけて体験する、ということだけではありません。

時間をたっぷり使ってやってみたいことをやってみましょう、ということです。

学期中は子どもたちも何かと忙しく、何かに没頭したり打ち込んだりということがなかなかできません。

好きなこと、やってみたいことを朝から晩までやってみてもいいのではないかな、と思います。

もしかしたら「ずっとゲームをしてもいいの?」と言い出す子どもたちも出てくるかもしれません。

夏休み限定で1日だけそんな日を認めてみてはどうでしょう。

ただし、ゲームをしているだけでは学びになりませんので、攻略法をまとめてレポートをつくる、というミッションを与えます。

このミッションによって、試行錯誤は論理的思考に近づいていきます。

レポートを読んでもらう対象を設定すれば、表現力も高められます。

また、お家の方と一緒に食事をつくるという体験も楽しそうです。

献立を決め、一緒に買い物に行って食材をそろえ、一緒に調理する。

大人と一緒になら、包丁や火を扱うことも挑戦できます。

さらに、調理しながら片付けるといった“段取り”力を身につけることもできます、とても大切な力です。

慣れてきたら全部一人で任せてもいいでしょう、それが子どもたちの生きる力になりますし、家の仕事を任せられたことで子どもたちの家族意識が高まります、家族の絆も深まっていきます。

夏休みにしたいことについてお子さまと相談し、一緒に夏休みの過ごし方を考えてみてください。

子どもたちは家族と一緒に何かできることに喜びを感じます。

遠くに出かけなくても、工夫次第で有意義で思い出に残る夏休みになります。

遊びも学びにつながります。

遊びと学習とをつなぐと、新たな学びが生まれることでしょう。

夏休みの学びや体験を2学期のいろいろなチャレンジにつなげていきたいです。



学校長